

研究課題：遊離空気の検出における画像診断法の改善についての後ろ向き研究

1. 研究の目的

遊離空気の検出における画像診断法を改善するにはどうすれば良いかを発見します。

研究の概要：患者様の体内に生じる遊離空気は、おもに消化管に穴があく穿孔という病態によって生じる画像所見です。消化管穿孔は、緊急の介入を要する疾患であり、単純レントゲン検査、超音波検査、CT検査、そしてMRI検査などの画像検査を用いて診断します。その所見と、患者様の状態を考慮して外科的な消化管穿孔部位の修復手術が選択されます。遊離空気は、緊急を要する疾患の画像所見にもかかわらず、担当小児科医が頻回にであう疾患ではないため、その画像所見になれることは難しいです。今回、遊離空気が疑われた患者様に行われた画像所見において、診断の際に注目すべき所見と、そしてX線写真やCTであれば白黒反転や濃度変化などの画像変換、超音波であれば動画参考が遊離空気の検出に役立つかを検討します。画像所見や検出に役立つ変換に精通することによって、チェックリストや、注意すべき点がより明瞭となる変換を画像検査結果確認時に自動で提示するなどすることによって、より適切に診断し治療方針のアドバイスが可能となると考えられます。

2. 研究の方法

2001年1月から2024年4月までに消化管穿孔が疑われた患者様で、精査、加療、経過観察が行われた、もしくは行われている患者様が対象となります。診療録から、治療法、画像所見等の情報を調べまとめます。

3. 研究期間

2024年5月（倫理委員会で承認を得られた日）から2024年12月まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

遊離空気が疑われた患者様の画像検査結果、カルテの記載から、検査に関する事柄（画像、検査所見、治療方法）を調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：放射線科 医長 細川 崇洋

研究分担者：放射線科 副病院長 小熊 栄二

放射線科 科長 田波 穰

放射線科 医長 佐藤 裕美子

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2024年9月30日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）